

2021年12月期 第3四半期 決算補足説明資料

2021年11月11日

Nexus Bank株式会社
(JASDAQグロス 証券コード：4764)

1	2021年12月期 3Qの総括	・・・ P3
2	2021年12月期 3Qの業績とトピックス	・・・ P5
3	セグメント別の事業状況	・・・ P12
4	Appendix（参考情報）	・・・ P19

2021年12月期 3Qの総括

1 2021年12月期 3Qの総括

- ✓ 海外Fintechを中心に業績が堅調に推移した結果、2021年12月期 3Qは 営業収益162.7億円、営業利益34.5億円といずれも最高収益・利益で推移
- ✓ 通期業績目標である 営業収益200億円、営業利益35億円、経常利益35億円、当期純利益31億円の達成に向け引き続き事業を推進。
- ✓ 新たな事業領域の開拓に向けた事業投資に着手。スタートアップ企業向け 投融資及びエンタメ・コンテンツ投資を開始。

通期業績目標達成と新たな事業領域拡大に向け **堅調に事業を推進**

2021年12月期 3Qの業績とトピックス

2 2021年12月期 3Qの連結業績推移

- 2021年12月期 3Qの業績は営業収益162.7億円、営業利益34.5億円、親会社株主に帰属する当期純利益30.2億円といずれも前年同期比で大幅な増収・増益（黒字化）にて継続推移。

	2021年12月期				2020年12月期 3Q 累計実績*2	増減額
	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績*1	3Q 累計実績		
営業収益	54.0 億円	55.0 億円	53.6 億円	162.7 億円	3.7 億円	+158.9 億円
営業総利益	33.1 億円	28.5 億円	24.8 億円	86.5 億円	3.0 億円	+83.4 億円
営業利益	15.0 億円	11.0 億円	8.3 億円	34.5 億円	△1.9 億円	+36.5 億円
経常利益	15.0 億円	11.3 億円	8.3 億円	34.6 億円	△2.0 億円	+36.7 億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	9.9 億円	14.9 億円	5.2 億円	30.2 億円	△2.9 億円	+33.1 億円
1株当たり当期純利益 (3Q) *3	6.16 円	9.24 円	3.26 円	18.66 円	△8.38 円	+27.04 円
為替レート (韓国ウォン)	0.0952 円	0.0965 円	0.0960 円	0.0960 円	-	-

*1：2021年12月期3Qの決算数値は「1月-9月の期中平均の為替レート」を採用。従前の四半期決算数値（1Q及び2Q）と当決算数値（3Q）においては、為替レートによる実績差異が発生することから当該差異は3Q実績として計上

*2：2020年12月期3Qの実績は、勘定科目の見直しに伴い一部科目間の組み替えを実施

*3：親会社株主に帰属する当期純利益 ÷ 発行可能普通株式総数にて算定（「P.21：1株当たり当期純利益・純資産の考え方」参照のこと）

2 業績予想に対する進捗状況

- 2021年12月期 通期業績予想に対する各業績の進捗率は、**営業収益が81.4%、営業利益98.7%、経常利益99.1%、親会社株主に帰属する当期純利益は97.5%**と大幅な計画増で推移。
- 計画増の背景としては2Qに実施した連結子会社の**株式譲渡による特別利益の計上**や、1Qからの**海外Fintechの順調な業績推移**、当初想定した為替レートよりも低い**円安による為替効果**によるもの。

	2021年12月期		
	通期 業績予想	3Q 累計実績	進捗率・推移
営業収益	200.0 億円	162.7 億円	① 81.4%
営業利益	35.0 億円	34.5 億円	98.7%
経常利益	35.0 億円	34.6 億円	99.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	31.0 億円	30.2 億円	② 97.5%
為替レート (韓国ウォン)	0.0907 円	0.0960 円	③ +5.8%

- ① 営業収益の計画増
海外Fintechが牽引
- ② 子会社株式の譲渡
による利益 **7.5 億円**
- ③ 円安による為替効果
収益・利益向上

海外Fintechの為替リスク及び新規の事業投資によるJカーブ効果を考慮し、**業績予想は現状を維持**

2 今後の当社の事業方針(1/2)

- 「人の想い」と「お金」をつなぎ新しい世界を創ることを目指すべく、既存事業である韓国貯蓄銀行の安定成長とキャッシュレスサービス及びITソリューションの更なる成長に向けた事業活動を進めるとともに、新たな事業領域の開拓に向けた投資活動を進めていく。

 SAMURAI TECHNOLOGY

+ NEW : 新技術・サービス分野



ITソリューション

スタートアップ



ベンチャーデットプログラム
(オイテル株式会社)

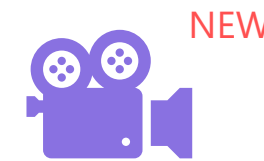
 Nexus Card



キャッシュレス
サービス

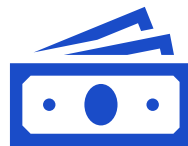
「人の想い」と「お金」をつなぎ新しい世界を創る

エンタメ・
コンテンツ



日本専属マネジメント契約
(BLACK LEVEL)

 JT親愛貯蓄銀行



韓国
貯蓄銀行業

日韓ビジネス



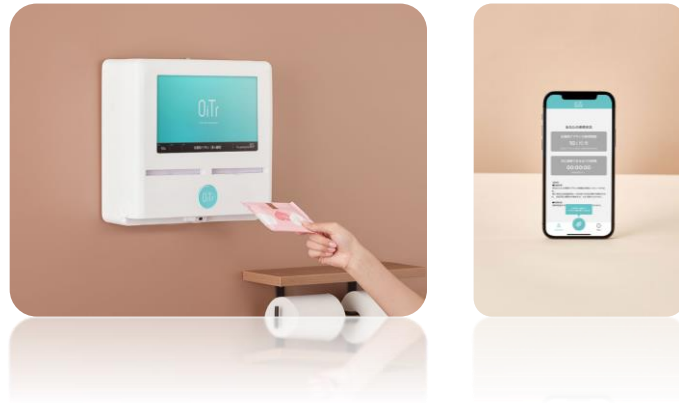
2 今後の当社の事業方針(2/2)

- 2021年3Qより、新たな事業領域の開拓に向けた事業投資活動を本格的に開始。グループ横断での取組みによりグループシナジーの最大化を目指す。

スタートアップ企業への投融資

創業期～成長期のスタートアップ企業がかかえる様々な「悩み」に対し、
 デット（融資）とエクイティ（出資）双方のアプローチによる柔軟なファイナンスプランを提供

※Nexus Cardにて2021年8月契約締結

第1号案件として生理用ナプキンの無料化により、ジェンダーレス社会の実現を目指すオイテル株式会社と極度枠融資契約を締結

エンタメ・コンテンツ領域への投資

映画や音楽など、さまざまなテーマのエンタメ・コンテンツに対して投資を行うことにより、新たな企画の立ち上げや海外アーティストの日本進出などを応援

※Nexus Bankにて2021年9月契約締結



新鋭男性7人組韓国アイドルグループ「BLACK LEVEL」の日本専属マネジメント契約を締結。日本の芸能活動をサポート

2 バランスシートの状況 (参考)

2020年12月期 通期：1ウォン = 0.0952円（2020年12月末日時点） / 2021年12月期 3Q：1ウォン = 0.0947円（2021年9月末日時点）

単位：億円

		2020年12月期 通期	2021年12月期 3Q	増減額
資産の部	流動資産	2,076.8	2,301.8	+225.0
	現金及び預金	188.4	226.3	+37.8
	営業貸付金	1,774.4	1,930.9	+156.5
	その他（含：貸倒引当金）	113.9	144.5	+30.6
	固定資産	46.8	48.6	+1.7
	総資産合計	2,123.6	2,350.4	+226.8
負債・純資産の部	負債	1,881.8	2,072.0	+190.1
	流動負債	1,858.1	2,046.0	+187.1
	銀行業における預金	1,777.1	1,999.0	+221.8
	未払費用	27.2	24.6	△2.6
	その他	53.6	22.3	△31.3
	固定負債	23.7	26.0	+2.2
	純資産	241.7	278.4	+36.6
	負債・純資産合計	2,123.6	2,350.4	+226.8

2 連結業績の損益状況（参考）

2021年12月期 3Q：1ウォン = 0.0960円（2021年1月-9月期中平均）

単位：億円

		2020年12月期 3Q累計*	2021年12月期 3Q累計	増減額	
連結業績	営業収益	3.78	162.74	+158.96	
	営業費用	0.77	76.24	+75.46	
	営業総利益	3.00	86.50	+83.49	
	販売費及び一般管理費	4.99	51.95	+46.96	
	営業利益	△1.99	34.54	+36.53	
	経常利益	△2.05	34.67	+36.73	
	親会社株主に帰属する当期純利益	△2.93	30.23	+33.16	
	1株あたり当期純利益（円）	△8.38	18.66	+27.04	
セグメント別の業績	Fintech事業	営業収益	1.78	160.80	+159.01
		営業利益	△0.40	38.18	+38.59
	ITソリューション事業	営業収益	1.59	1.46	△0.13
		営業利益	0.30	0.15	△0.15
	その他	営業収益	0.40	0.48	+0.08
		営業利益	0.36	0.45	+0.08

*2020年12月期2Qの実績は、勘定科目の見直しに伴い一部科目間の組み替えを実施

セグメント別の事業状況

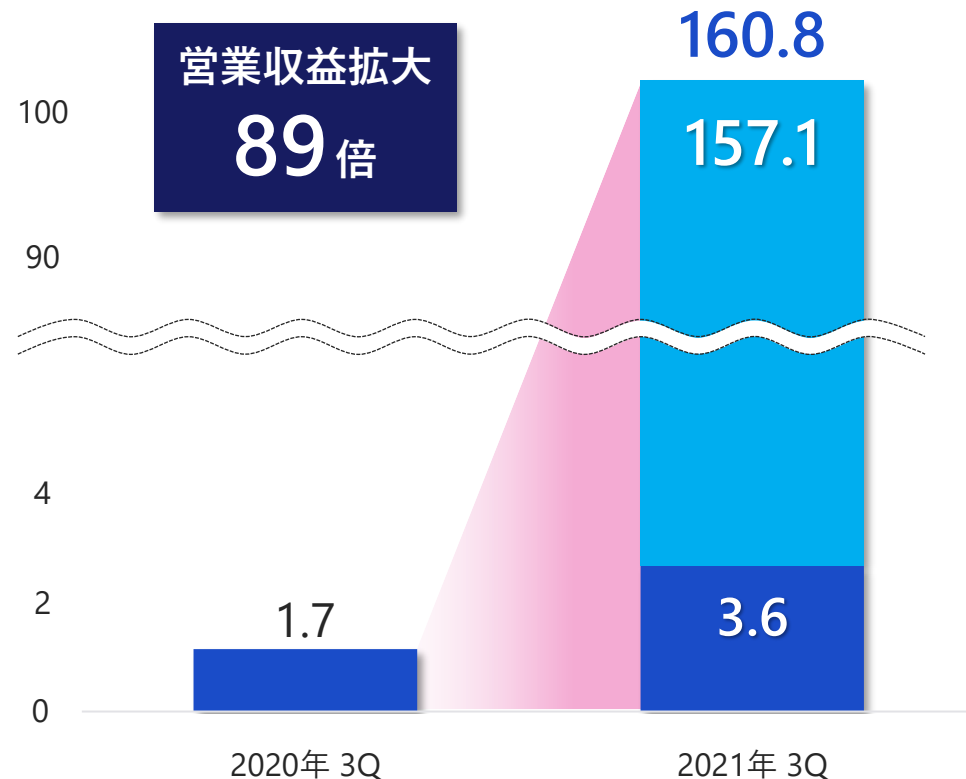
3 業績状況 – Fintech事業

- JT親愛貯蓄銀行による海外Fintechの順調な業績牽引により、**営業収益は160.8億円と前年同期と比べ89倍の大幅な増収**で推移。
 営業利益についても収益の大幅な増加により**38.1億円と大幅な黒字化を継続達成**。

営業収益の推移

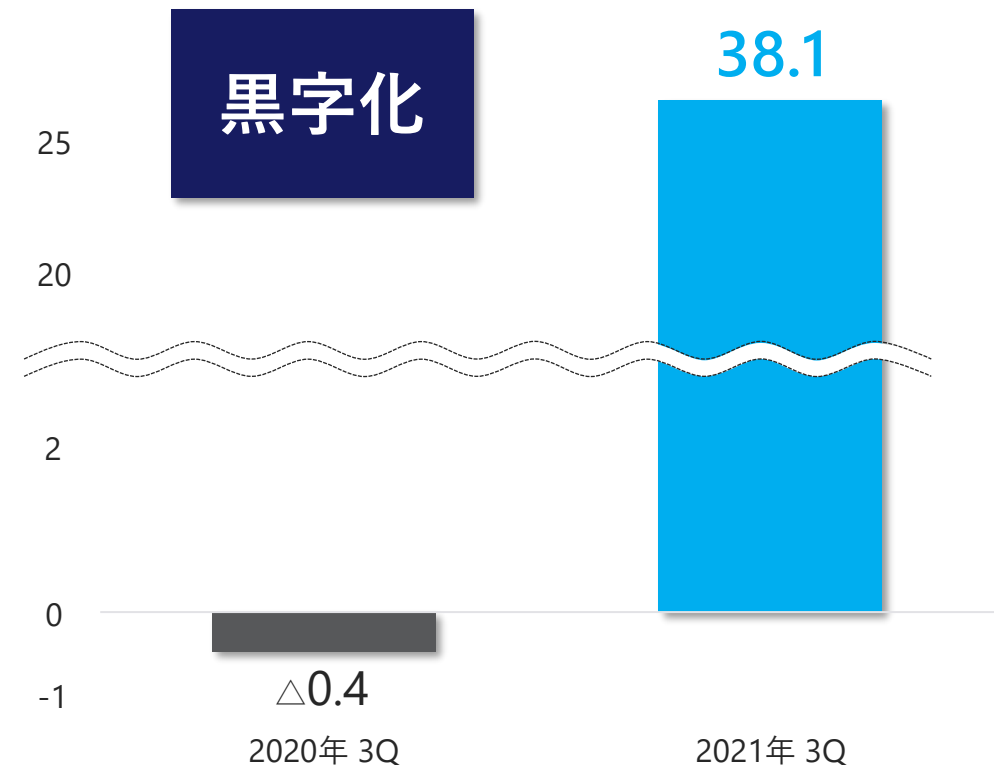
単位：億円

■ 国内エリア ■ 海外エリア



営業利益の推移

単位：億円

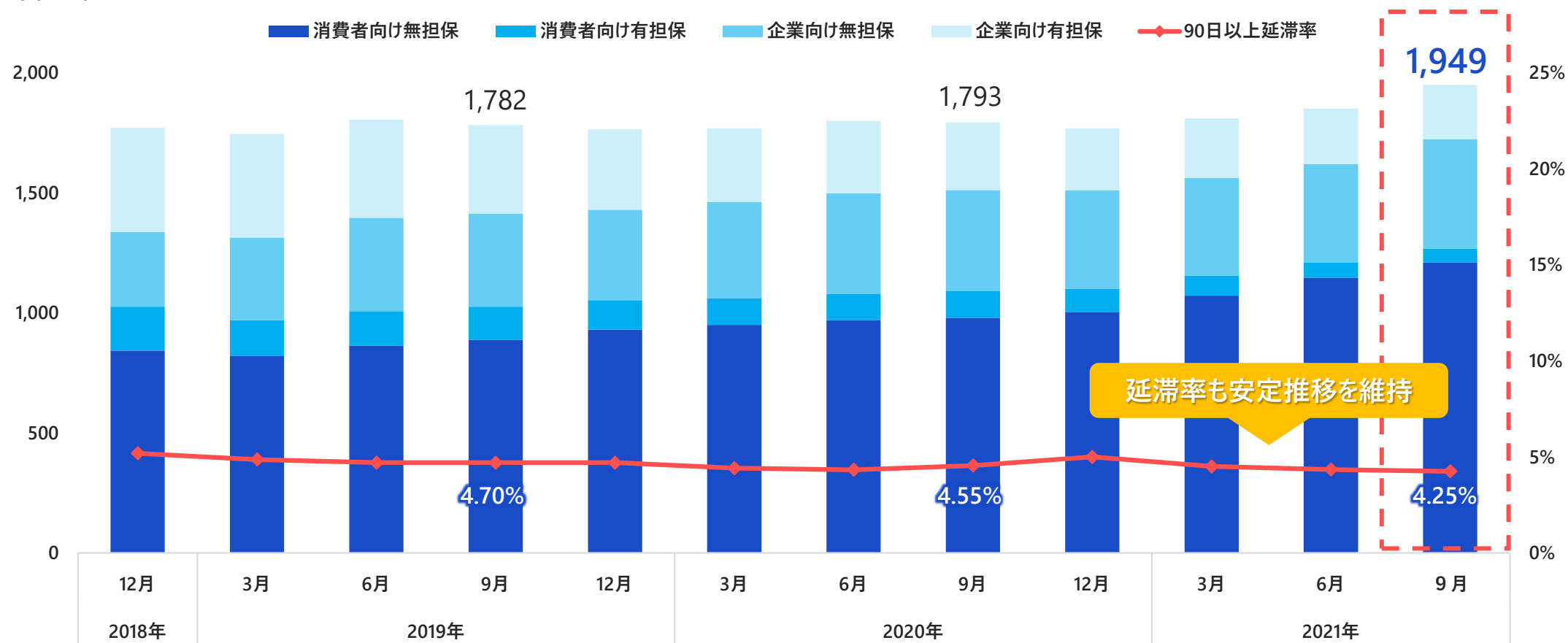


3 Fintech事業 – 海外エリア JT親愛貯蓄銀行における貸付残高の推移

- 韓国政府による規制強化や新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の停滞が懸念される環境下においても、引き続き徹底した顧客分析と審査による貸付を継続した結果、**中金利帯の個人向け貸付が堅調に推移**。

貸付残高の推移 (K-GAAP基準*)

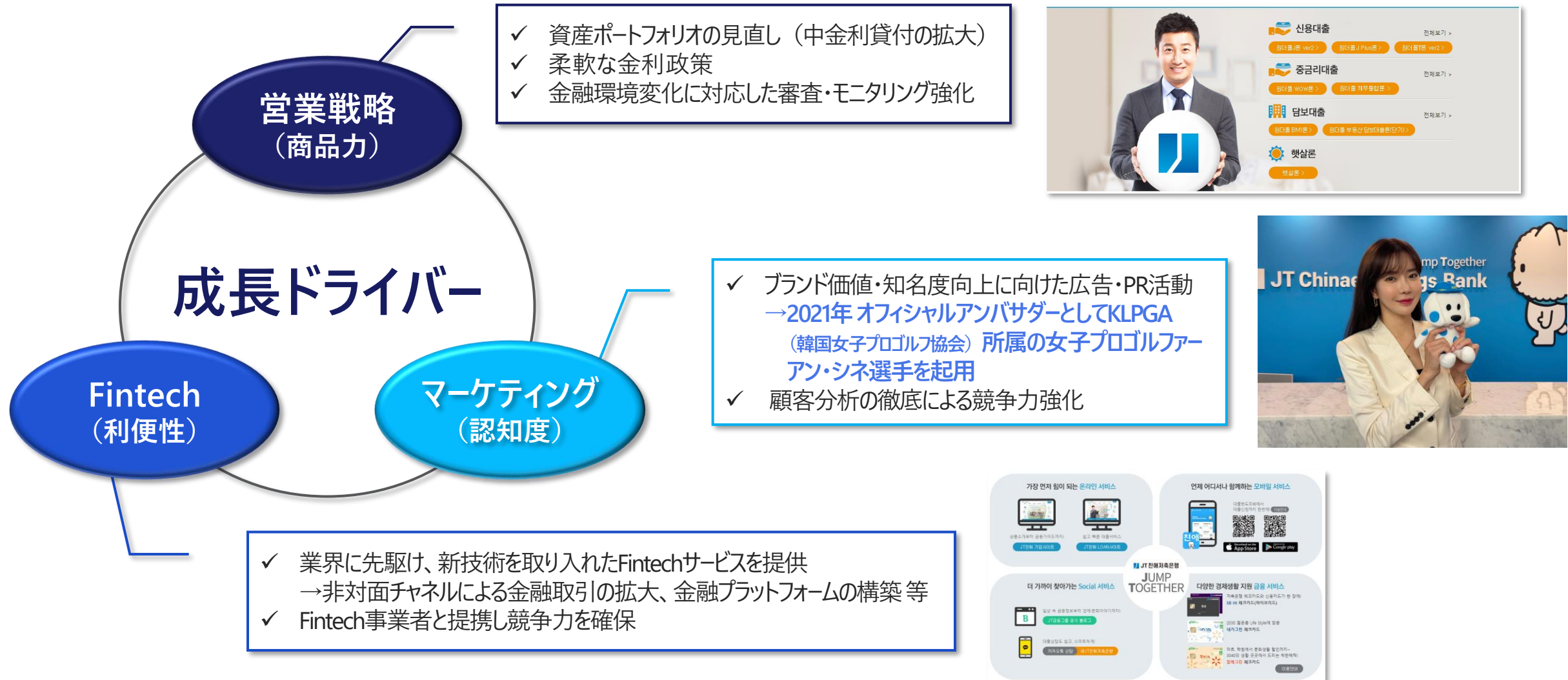
単位：億円



* 韓国現地の会計基準
為替レート：1 ウォン = 0.0947円 (2021年9月末日時点)

3 Fintech事業 – 海外エリア 三位一体の事業戦略による安定成長

- 外部環境の変化に柔軟に対応した営業戦略とFintech技術への継続的な投資活動、顧客分析の徹底によるマーケティング活動が、有機的に結びつくことにより、**高い競争力を維持**。

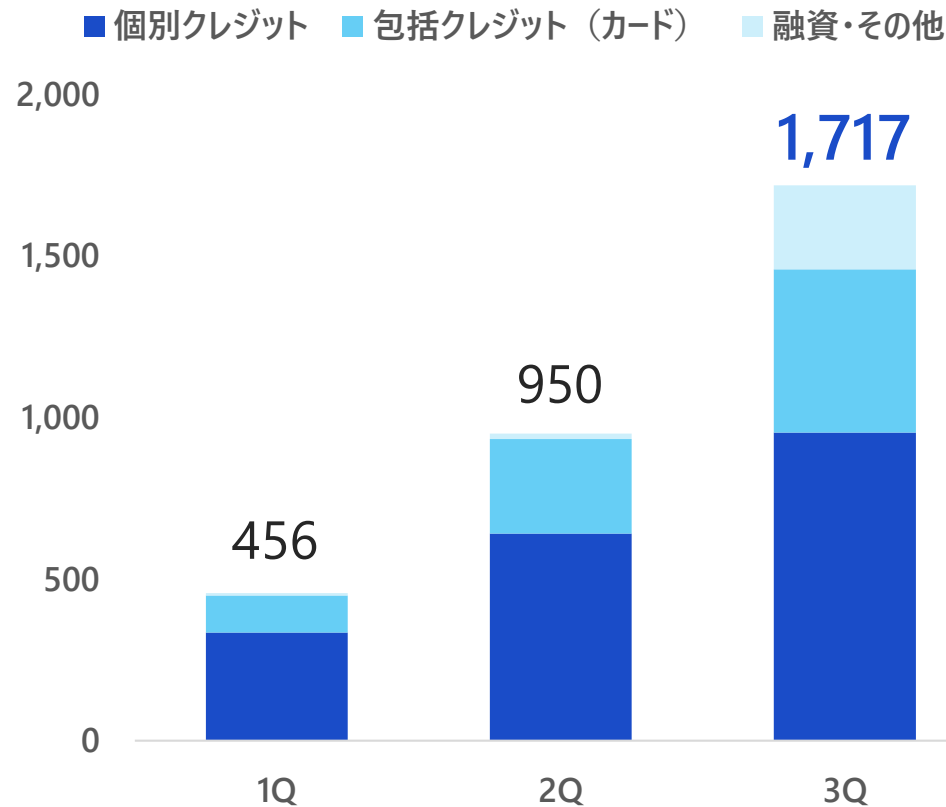


3 Fintech事業 – 国内エリア キャッシュレスサービスにおける取扱高の推移と拡大に向けた取組み

- キャッシュレスサービスは、コロナウイルス感染症拡大による消費低迷の影響により、個別クレジットの取扱高が鈍化。スタートアップ企業をはじめとした法人向け融資など取扱高拡大に向けた取組みを強化。
- クレジットカードサービスについては、引き続きデポジット（保証金）型クレジットカードの普及に向けプロモーション活動を推進。

キャッシュレスサービスにおける取扱高の推移

単位：百万円



取扱高の拡大に向けた主な取組み

■個別クレジット／法人向け融資

- 営業網を都心部へ拡大。グループ連携で新規加盟店の獲得に注力
- 新たな収益源の獲得に向け、スタートアップ企業をはじめとした法人向け融資に着手（ベンチャーデット等）

OiTr



■包括クレジット（クレジットカード）



- デポジット（保証金）型クレジットカード利用者の獲得・利用拡大に向けたプロモーション活動を引き続き推進

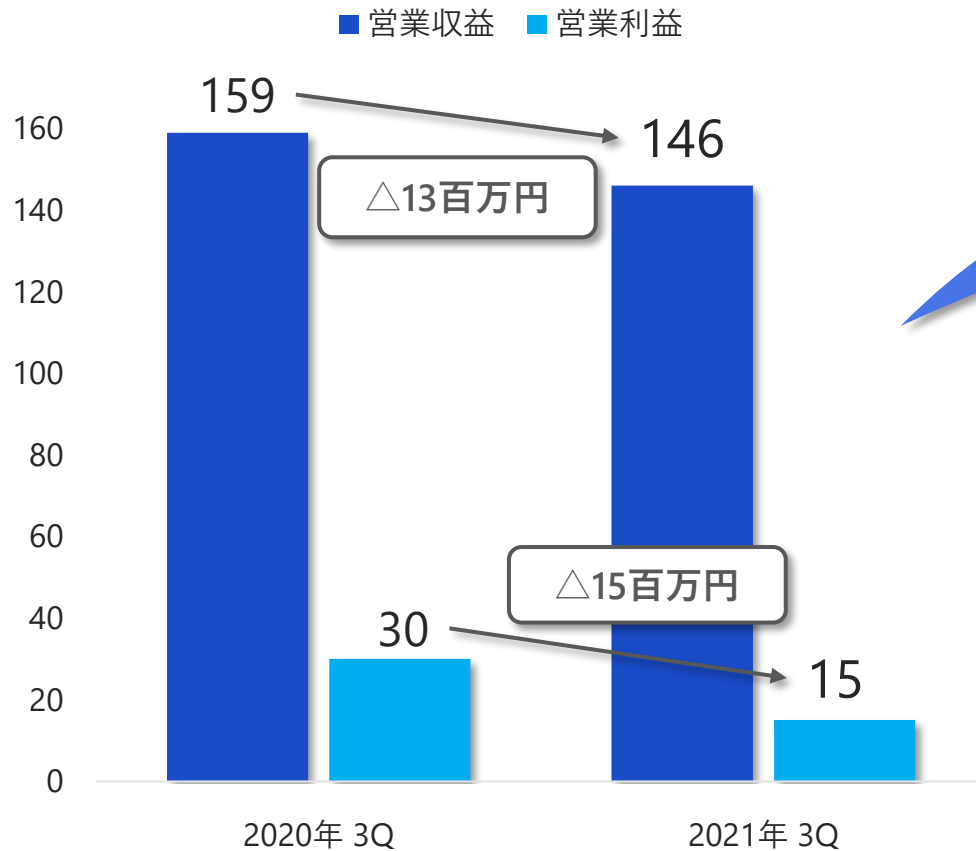
（リスティング広告、SNS、PR活動等）

3 事業状況 – ITソリューション事業

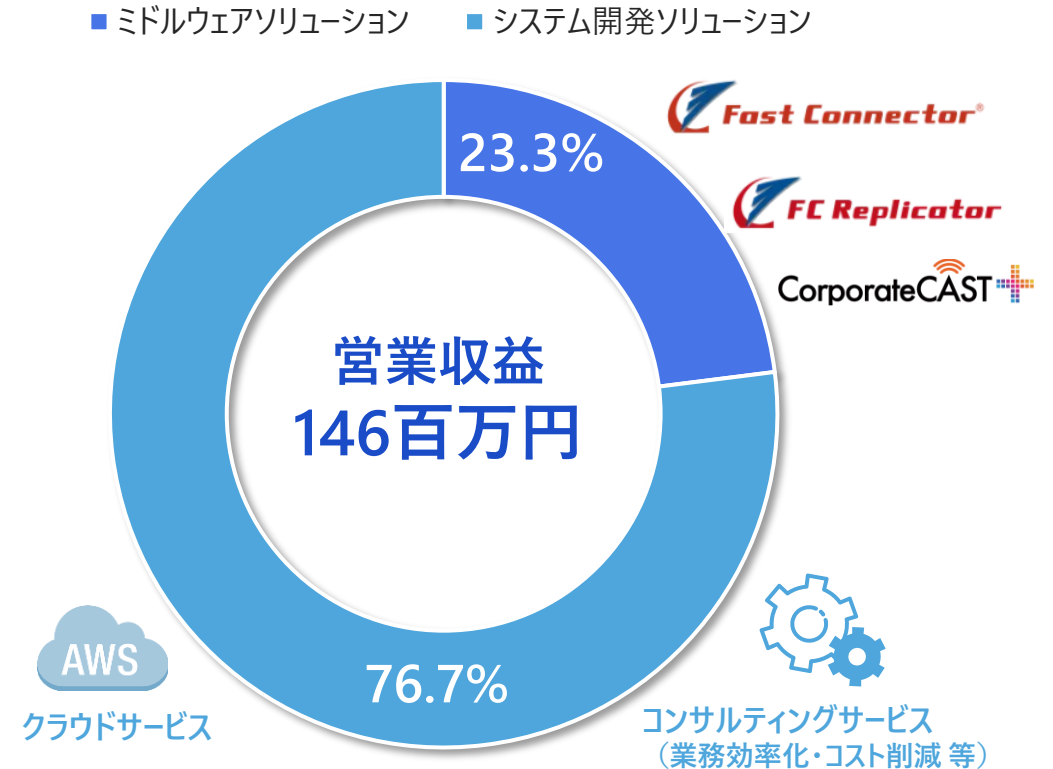
- 継続的な新規案件の受注を獲得はしているものの、既存開発案件へリソースが集中している状況が続き、営業原価の拡大も伴ったことにより、営業収益は146百万円と前年同期比13百万円の減収、営業利益は15百万円と前年同期比15百万円減益で推移。

ITソリューション事業の業績推移

単位：百万円



営業収益の構成比

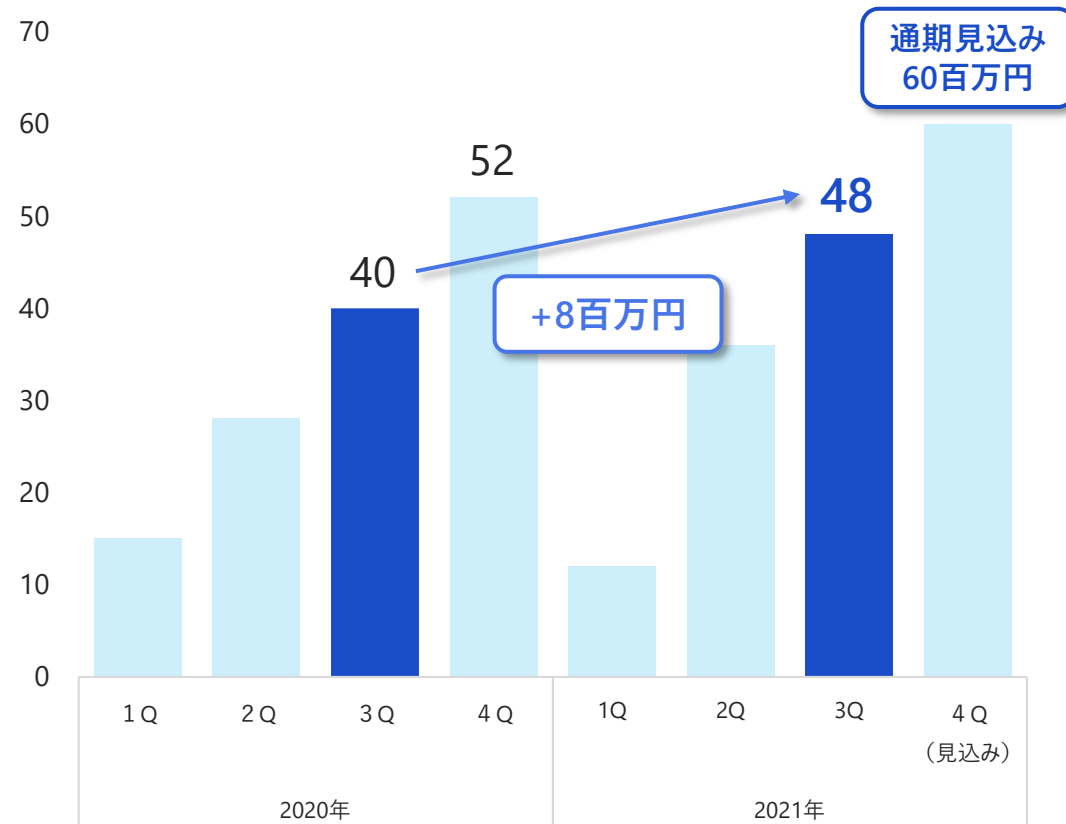


3 事業状況 – その他

- 大阪市中央区東心斎橋の不動産賃貸収益の他、2021年6月に実施した株式譲渡に伴い、前連結子会社との内部取引の一部をその他の収益として計上した結果、前年同期比において増収・増益で推移。

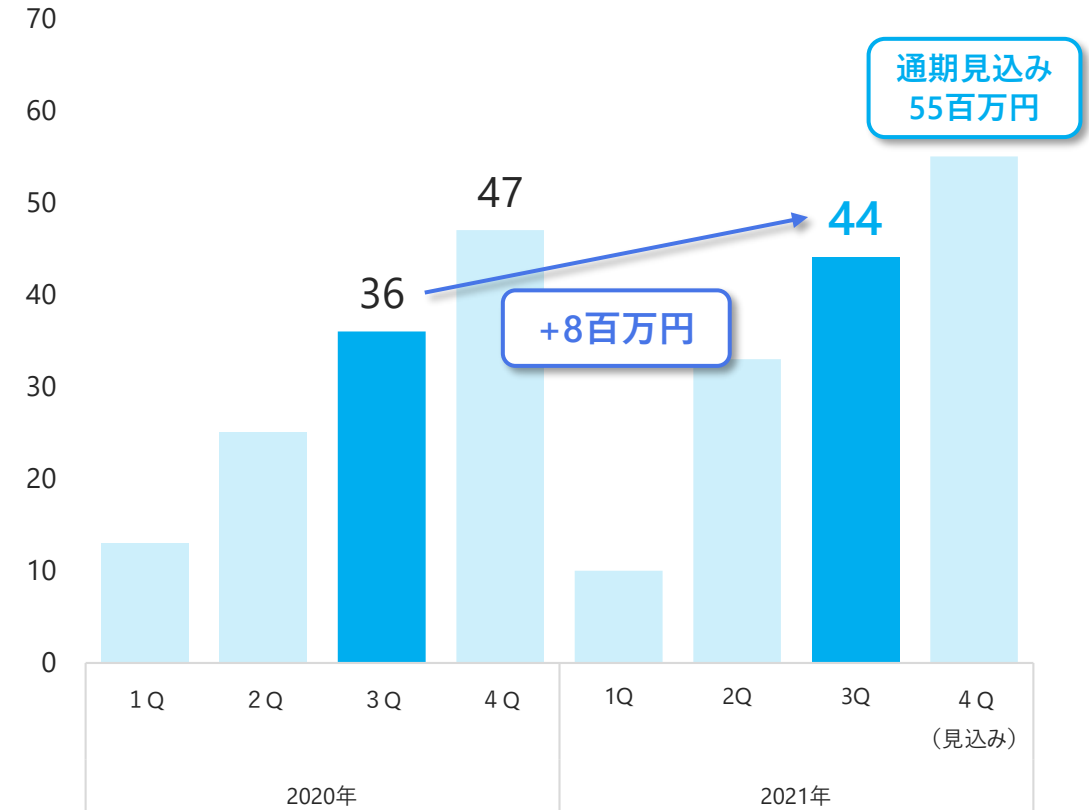
営業収益の累計推移（四半期別）

単位：百万円



営業利益の累計推移（四半期別）

単位：百万円



Appendix (参考情報)

4 1株当たり当期純利益・純資産の考え方

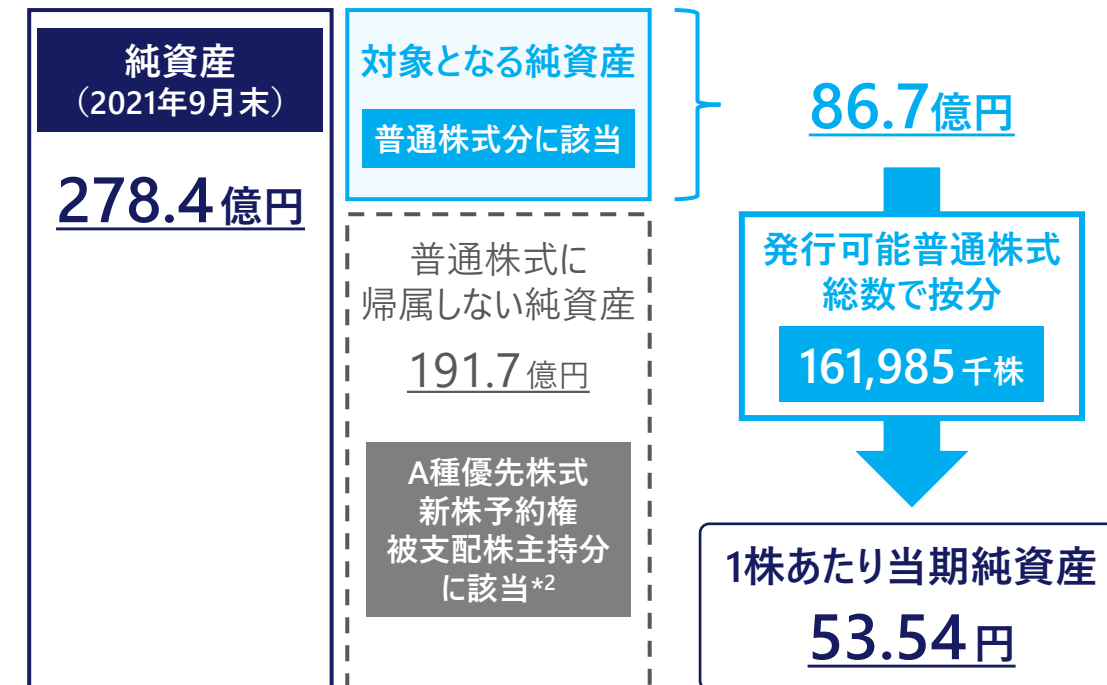
- 2020年11月の大型M&Aにおいて発行したA種優先株式（配当分配：普通株式と同順位、残余財産の分配：普通株式より優先）の状況を踏まえ、1株当たり当期純利益・純資産の算定については以下の方式を採用。

1株あたり当期純利益の算定

	2021年12月期 3Q 累計実績	
	発行済普通株式数	発行可能普通株式総数
① 親会社株主に帰属する当期純利益（9カ月分）		30.2 億円
② 算定において適用する株式数	49,587 千株 (2021年1月-9月期中平均)	161,985 千株*1
③ 1株当たり当期純利益（9カ月分）（①÷②）	60.96 円	18.66 円

2021年12月期3Qの実績値

1株あたり純資産の算定



*1：発行可能普通株式総数は2021年9月末時点の状況を反映

*2：A種優先株式（除：自己保有分）1,504,702株分（普通株式：150,470,200株分）と第12回及び第14回-第17回新株予約権及び被支配株主持分に相当する純資産

免責事項

本資料は、当社の事業及び業界動向についての現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しております。これらの予想等に関する記述は、当社が現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後、経済情勢や市場環境等の様々な要因により、事前の通知なくして変更される可能性があります。

本資料に関する問合せ窓口

経営管理部 IR担当

問合せページ：https://www.nbank.co.jp/ir_inquiry/